

価値のある人生を 送れるように

理事長・統括施設長 岡野光宏

つくほうだより

お陰様で無事平成27年度も終了し、平成28年度となりました。

これも皆、保護者の皆様、後援会の皆様、利用者の方々、地域の皆様、各関係機関、応援してくださる皆様のご支援のお蔭と感謝しております。

先日、大阪の富田林市にあります桃花塾（とうかじゅく）の100周年の記念式典に参加してまいりました。日本の「知的障害者福祉・教育の創始者」と言われる明治24年に社会福祉法人滝乃川学園を創設した石井亮一氏の特殊児童教育の専門的取り組みに共鳴し、大正時代

に10施設弱が設立されたうちの1施設であります。

桃花塾は大正5年に設立され、現在も大阪羽曳野丘陵の一端に25,000坪の広大な敷地に、いのち育む自然環境を大事にして施設を展示させてきた施設です。

昭和9年に知的障害者関係の施設団体「日本精神薄弱者愛護協会」（現在の知的障害者福祉協会）が設立されました。初代会長は上記石井氏が選ばれ、創立時の施設は、滝乃川学園、白川学園（京都）、桃花塾、藤倉学園（東京）、筑波学園（茨城）、八幡学園（千葉）、小金井

治療教育所（東京）、浅草寺カルナ学園（東京）の8施設でした。その後、広島の六方学園と続きます。現在も5施設は創始者から孫の時代となりこの日もお目にかかり共に桃花塾の100周年をお祝いいました。

当筑峯学園も祖父の筑波学園から数えますと5年後に100年を迎えます。

創設期、戦前、戦後の混乱期、その後の法制度の整備に従って社会福祉法人としての運営をすすめてきました。大変でない時はなかったように思います。が、なぜ、続けなければ、なぜ、職員にまた理事長の妄想炸裂・・などと言われながらも前にすすみたいのかと申しますと、まだまだ利用者の願い、夢、は充分かなっているとは思いません。利用される人々にとって人として生まれ生きる価値のある人生を送れるような支援をめざし、事業を行っていきたいと思っております。皆様のご協力、ご支援に感謝しながら今年度もよろしくお願い申し上げます。



平成28年度を迎えて

春、生命力に満ち溢れた季節がやってきました。山の木々の緑の美しさ、花々は、黄色、藤色、あか、白、ピンク等それぞれの素敵な花を咲かせています。「今年もきれいに咲いたね」と声をかけて自然を満喫しているこの頃の私です。

平成27年度もお陰様で無事終了しまして、平成28年度を迎えました。園生36名(学齡児26名、学卒者10名)です。職員は新職員を2名、事務系に2名、そして育休を終えた児童施設支援員1名が元気に復帰してくれました。

女性が子供を育てながら働くという事は大変な事です。余談になりますが、40年も前、私がとある養護学校で教員実習をしていた時の事なのですが、主任教師が朝の職員会議で「○○先生が妊娠されました。(前回は残念にも流産されたらしく)、今回、○○先生が無事出産さ

れるよう職員は力を合わせて守りましょう。」と話されていました。出産を個人的な事のみ捉えるのではなく、人類誕生を社会的なものとして皆で支えるといった姿勢に感心した当時の私でした。

働いている間にはいろいろな事があります。子供の病気や家族、または自分の病気、子供の進学や親の介護等々、いろいろな人に支えられながら何とか生活してきました。私は働く女性が生き生きとこの職場でその時々々の環境に合わせて長く働き続けてくれたらいいな・・・と考えています。

話は変わりますが、熊本の地震、まだ続いていますね。被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。児童施設も災害備品等の見直しをいたしました。日頃より、いろいろ状況を想定して訓練、準備をしていきたいと思っております。

児童施設のこれからの行事としては「こどもの日まつり」、「学園・学校の個別面談」等々が予定されております。保護者の皆様のご協力をお願いいたします。

児童施設の園生一人ひとりが心豊かに成長できますよう、職員一同、力をあわせて努力していきたいと思えます。保護者の方々、後援会の方々、筑峯学園を応援してくださる方々の協力をお願いいたします。

障害者支援センター・未来

センター長 松島寿樹

今年もチャレンジング!

まだまだ朝晩は肌寒い日もありますが、筑峯学園から見える山の木々も芽吹き、日ごとに異なる自然の表情を楽しんでいます。利用者さんも新年度を迎え、作業班の変更なども少しあり、少しそわそわしながらも、心新たにやる気に満ち溢れている事と思えます。

今年度、障害者支援センター未来では新たに特別支援学校を卒業した4名の利用者さんを迎え、総勢68名でスタートしました。新たに新しい始めた利用者さんも、毎日の活動を通して少しずつ未来での生活に

慣れ、他の利用者さんと共に毎日元気に活動しています。

今年度も未来では約8haの田んぼでつくほう米作り、約1ヘクタールの畑で野菜作り、耕作放棄地の再生や山林の開拓、木工作业、和紙の制作などを中心として利用者さんの心身の状態に合わせていろいろな活動を取り入れながら活動していきたいと思えます。また、農業を委託されている株式会社ファーム(サツマイモ生産)やワイン用ブドウ農場の開墾整備作業への参加などより就労に近い環境で作業をする機会も今年度は増えそうです。

日々の活動や運動会、夏期旅行、収穫祭、スキー旅行等の行事を通して、利用者一人ひとりの気持ちに寄り添い、共感しながら、時には叱咤激励し、メリハリのあたる支援を意識しながら、体力的にも精神的にも充実した人生を歩んでいけるように関わっていききたいと思えます。

今年度も様々なことにチャレンジしながら事業所としてさらなる成長ができるように、利用者・職員、

力を合わせて頑張って活動していきたくと思います。

保護者の皆様、関係者の皆様には今後ともご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

グループホーム・ほっとハウス

施設長 松山金寿

余暇活動の充実をめざして

つくほうだより

若葉が薫る頃となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。ほっとハウス平沢から見える山々も緑一面となり、素晴らしい景観となっております。皆様も、こちらにお越しの際には、是非ともご覧になって頂ければと思います。

ほっとハウスの状況ですが、平沢の方は、A1棟が開所から1年が経過しました。A1棟の利用者様は、活動的な方が多く、それぞれ元気な毎日を過ごしております。また、徐々にではありますが、毎日の生活の中で、生活リズムや役割分担も出

来上がりつつあるように思います。

利用者様の様子ですが、作谷、平沢共に、インフルエンザ、ノロウイルスにも感染せずに元気に過ごしております。昨年末にはクリスマス会も行いました。利用者様も大いに楽しみ、ご馳走も食べてそれぞれが満足した様子でした。また、3月には、カラオケ班とボーリング班に分かれて、休日の余暇活動を楽しんできました。皆様の普段とは違った嬉しそうな表情や隠れた才能？も見る事が出来ました。利用者様より、また行きたいとの声も多くあり、今後も余暇活動の計画を継続していきたいと思えます。今後の予定は、5月のゴールデンウィークにバーベキュー大会を計画しています。利用者様も今から楽しみにしている様子が伺えます。

利用者様の笑顔や、元気に過ごしている様子を見るのが何よりと思えますので、今後も職員一同、利用者様が安心して生活出来る様、より良い支援を行なってまいりますので、引き続き、皆様方の温かいご支援を頂ければ幸いです。

障害者相談支援事業所

事業所長 武田真浩

計画作成だけが

相談支援ではないですよ！

平成28年度が始まりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか？

平成24年度より相談支援事業が本格的にスタートし、4年が経過しました。年々少しずつ浸透していき、理解されてきているように思われますが、依然として相談支援Ⅱ計画作成（計画相談）とのイメージを持たれている方が多いように感じられます。

相談支援とは、障害を抱えている方やその家族が、様々な支援やサービスを利用しながら、地域の中でその人らしい暮らしを続けていくためにあらゆる相談を受け止め、本人やご家族等の立場に立って考え、「望んでいることは何か」「何を支援すればよいか」「支援をするときに地域の社会資源はどんな状況か」等の多面的な視点をもって、本人を中心に、家族、支援者、行政等とネ

ットワークを構築しながら行なう支援です。

計画作成は相談支援の中の一部ですので、計画作成ではない相談についても幅広く受け付けております。こんなこと聞いてもいいのかな？とは思わずに、わからないこと、不安なこと、聞きたいこと、聞いてほしいこと等がございましたら、遠慮なくご利用していただけたらと思っております。

当事業所の職員体制としては、これまで障害者支援センター未来に所属しておりました職員1名が今年度より相談支援事業所の所属となり、専従職員2名体制となりました。他事業所との兼務の職員も2名おり、加えて引き続き当法人で行なっております各事業所の職員の協力も得ながら、気軽に相談できる場として利用していただけるように取り組んでいきたいと思っております。

今後ともよろしくお願いいたします。